

## 子どもが作る「ふくおか弁当の日」取組事例

市町村名	田川市
学校名	田川市立大浦小学校
<b>【取組内容】</b>	
1 実施学年	第6学年（28名）
2 目的	中学校に進学する小学校6年生に、栄養や分量などを考えたお弁当を作る力を育成する。また保護者と児童が共に、家庭で一品お弁当のおかずを作り、お弁当づくりへの家庭の意識を高める。
3 実施時期	平成26年1月～2月
4 事前指導	栄養士から、お弁当の意義やお弁当作りのポイント等の食育の基礎について学ぶ。 お弁当のメニューを、保護者への取材をもとに考える。 お弁当のおかずのレシピを作る。 保護者には、学級通信等を通じて、お弁当作りの協力依頼を事前に行う。
5 取り組みの実際・工夫点	家庭で作ってきた「マイおかず」のおすすめポイントを交流する。 班ごとに保護者についてもらい、卵焼き等の作り方のお手本を見る。 各自2品ずつ、おかず作りを行う。保護者・教師は各班の支援にあたる。 事前学習で学んだことをもとに、「マイおかず」と調理したおかずをお弁当につめる。班の中で「マイおかず」を少しずつ交換し合うことにより、おかずの品数も多く、彩り鮮やかなお弁当となった。 試食、片付け、ふり返り（相互評価、自己評価）
6 事後指導	お互いのお弁当を試食し合い、相互評価・自己評価を行った。 また、保護者や教師より、一言メッセージをもらい、今後の活動への意欲付けとした。卒業式では、お弁当と一緒に写った各自の写真を掲示し、中学校でのお弁当作りへと意識づけた。
7 広報	保護者へは、学級通信を通し活動を知らせた。田川市の広報誌・新聞の地方版において、取材を受け、掲載された。栄養士は他校において、「お弁当の日」の取り組みを発表した。
<b>【取組の成果と課題】</b>	
成果	栄養や分量を意識し、楽しみながらお弁当を作ることができた。中学校に行っても、お弁当を作りたいという意欲をほとんどの児童がもてた。また、保護者から、子どもの食育に対する意識が変わったという感想をいただき、高い評価を受けた。あわせて、今回の取組は、食育の重要性について、保護者への啓発にも大いに役立ったと考える。
課題	この取り組みは学校だけでは難しいので、今後も保護者の協力体制作りが必要である。

